



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/10/24
SDS整理番号 01252352

製品等のコード : 0125-2352

製品等の名称 : ステアリルアミン (オクタデシルアミン)

推奨用途 : 試薬

参考 : その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
陽イオン界面活性剤の製造原料 (第四級アンモニウム塩型カチオン活性剤)、
浸潤剤、浮遊選鉱材、防水剤の原料。
酢酸塩として、防食剤、殺菌・殺藻剤、粉体コーティング剤、帯電防止剤など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
引火性液体
自然発火性液体

: 区分に該当しない
: 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性 (経口)
皮膚腐食性/刺激性
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

: 区分に該当しない [区分5(国連GHS分類)]
: 区分2
: 区分2A
: 区分3 (麻酔作用)
: 区分2 (消化管)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)
水生環境有害性 長期(慢性)

: 区分1
: 区分1

注意喚起語 : 警告

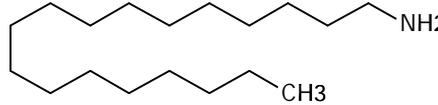
危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ (経口)
皮膚刺激
強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ
長期又は反復暴露による消化管の障害のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。



保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

漏出物を回収すること。

【保管】

日光を避け、遮光した容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	ステアリルアミン (別名) オクタデシルアミン、1-オクタデカンアミン、 オクタデカン-1-アミン、モノステアリルアミン (英名) Stearylamine、Octadecanamine、1-Octadecanamine、 Octadecan-1-amine、 Octadecylamine (EC名称)、 1-Octadecanamine (TSCA名称)
成分及び含有量	:	ステアリルアミン、 80%以上
化学式及び構造式	:	CH ₃ (CH ₂) ₁₆ CH ₂ NH ₂ 、 CH ₃ (CH ₂) ₁₇ NH ₂ 、 C ₁₈ H ₃₉ N、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	269.51
官報公示整理番号	化審法	(2)-133、(2)-176
	安衛法	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	124-30-1
EC No.	:	204-695-3
危険有害成分	:	ステアリルアミン

4. 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてから ゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの 隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、 洗浄を続ける。
飲み込んだ場合	:	眼の刺激が持続する時は、医師の診断、治療を受ける。 直ちに口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状:		吸入 : 咳、咽頭痛 皮膚に付着 : 痛み、発赤 眼に付着 : 痛み、発赤 経口摂取 : 情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大する可能性があるため)
特有の危険有害性	:	加熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法	:	火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。 火元への燃焼源を遮断する。 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。 消火の効果がないおそれがある場合は散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。 風上から作業し、粉じん、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項 回収、中和 封じ込め及び浄化の方法	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 機材
二次災害の防止策	:	危険でなければ漏れを止める。 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 周辺の発火源を速やかに取除く。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い 技術的対策	:	裸火禁止。 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 粉じんの堆積を防止する。 身体とのあらゆる接触を避ける。 炎、火花または高温体との接触を避ける。 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	:	換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	:	炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管 技術的対策	:	保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	:	光のばく露や高温を避けて保管する。 容器は遮光し、冷暗所に保管する。 必要に応じ施錠して保管する。
混触危険物質	:	混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。 強酸化剤(硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など)、 強酸
容器包装材料	:	ガラス、ステンレス鋼、銅、ふっ素樹脂など

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 許容濃度(ばく露限界値、 日本産業衛生学会 ACGIH)	:	設定されていない。 生物学的ばく露指標): 設定されていない。 設定されていない。
設備対策	:	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	:	

呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具 (防じんマスクなど) を着用する。
手の保護具	: 保護手袋 (塩化ビニル製、ニトリル製など) を着用する。
眼の保護具	: 眼の保護具 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣、顔面用の保護具を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 結晶、粉末または塊
色	: 白色
臭い	: 特異臭 (アミン臭)
pH	: 弱塩基性 (飽和水溶液、25)
融点	: 約53
凝固点	: 47 ~ 53
沸点	: 347
引火点	: 148 (密閉式)
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: 0.06 Pa (25)、 1.67 kPa (72)
相対ガス密度 (空気 = 1)	: データなし
密度又は相対密度	: 0.86 g/cm ³
比重	: データなし
溶解度	: 水にほとんど溶けない。 エタノール、アセトン、四塩化炭素、クロロホルムに可溶。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 7.7
発火点	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし

GHS分類

可燃性固体	: 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告 (UNRTDG) のクラス4.1 (可燃性固体) にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	: 本物質より鎖長の短いブチルアミンの発火点310 (GESTIS) から、本物質は常温では発火しないと考えられることから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)	: 通常の取扱条件において安定である。 光や空気中の酸素により、徐々に黄褐色に変色する。
危険有害反応性可能性	: 水溶液は弱塩基性で、強酸と激しく反応することがある。 強酸化剤と反応し、火災および爆発の危険をもたらすことがある。 加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物などの有毒なヒュームを生じる。
避けるべき条件	: 日光、光、高温、湿気、裸火、スパーク、静電気
混触危険物質	: 強酸化剤、強酸、酸無水物、酸塩化物
危険有害性のある分解生成物	: 加熱すると分解し、一酸化炭素、窒素酸化物等の有毒なガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 > 2,000 mg/kg (EU-RAR (2008)) 区分5とした (国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 飲み込むと有害のおそれ (経口) (区分5)
	: 経皮 分類できない。
	: 吸入 (蒸気) 分類できない。
	: 吸入 (粉じん、ミスト) 分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG 404準拠) が報告され、72時間後の紅斑及び浮腫の平均スコアは、3.0及び1.3であり、21日以内に多くの所見が消失している (EU-RAR (2008)) ことから、区分2とした。 皮膚刺激 (区分2)

眼に対する重篤な損傷/刺激性:	ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405準拠) において、本物質適用後72時間のドレイスコアは、結膜発赤3.0、結膜浮腫3.0であることから (EU-RAR (2008))、区分2Aとした。 強い眼刺激 (区分2A)
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	呼吸器感作性: 分類できない。 皮膚感作性: 分類できない。
生殖細胞変異原性:	分類できない。 in vivoデータはなく、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性である (EU-RAR (2008))。
発がん性:	分類できない。 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。
生殖毒性 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	ラットの強制経口投与において2,000 mg/kg 投与により回復性の自発運動低下、立毛、円背位、歩行異常、活動低下、不規則呼吸等がみられたため (EU-RAR (2008)、BUA 177 (1994))、区分3 (麻酔作用) とした。 眠気又はめまいのおそれ (区分3)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	イヌに1年間強制経口 (カプセル) 投与した試験において、区分2に該当する用量 (15 mg/kg/day) で、3例中1例が出血性下痢、食欲不振を呈した後死亡した。他の2例も体重増加抑制を示し、病理学的に腸間膜リンパ節 (組織球の増加) 及び消化管 (小腸粘膜絨毛先端部の淡明化) への影響がみられた (EU-RAR (2008)) との記述、並びにラットに2年間混餌投与した試験において、区分2に該当する用量 (500 ppm; 27-28 mg/kg/day) で、12例中1例に腸間膜リンパ節の組織球性過形成がみられた (EU-RAR (2008))。PATTY (6th, 2012) ではこれを毒性影響としていないが、EU-RAR (2008) ではイヌで同様の影響がみられていることを根拠に、この1例のみの所見は有害性影響であるとの見解を示している。また、ラットの当該試験では高用量群 (3,000 ppm; 88 mg/kg/day (雄、区分2)、138 mg/kg/day (雌、区分に該当しない)) において、小腸粘膜及び腸間膜リンパ節に組織球の蓄積を認めている (EU-RAR (2008)、PATTY (6th, 2012))。従って、ラット、イヌともに区分2のガイダンス値範囲内で消化管 (出血性下痢、小腸粘膜の組織変化) 及び腸間膜リンパ節に影響がみられているが、腸間膜リンパ節における組織球増多は小腸粘膜への刺激性影響により誘発された二次性変化 (局所性の免疫応答) と考え、免疫・リンパ系器官を標的臓器とするのは妥当でないと判断した。一方、小腸粘膜の組織変化の毒性学的意義は明らかではないが、EUによる有害性影響との見解も踏まえて、区分2 (消化管) に分類した。 長期又は反復ばく露による消化管の障害のおそれ (区分2)
誤えん有害性:	分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (Scenedesmus subspicatus) 72時間ErC50 = 0.12 mg/L (EU-RAR, 2007)
水生環境有害性 長期 (慢性)	水生生物に非常に強い毒性 (区分1) 急速分解性があり (BODによる分解度: 70-75% (EU-RAR, 2007))、甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50=0.13 mg/L (EU-RAR, 2007) であることから、区分1とした。 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性 (区分1)
残留性・分解性	良分解性。BOD分解度 = 70 ~ 75%
生物蓄積性	高濃縮性。Log Kow = 7.7
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま
-------	--

埋め立てたり投棄することは避ける。

(参考)(1)燃焼法

可燃性溶剤に溶解し噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。

(2)活性汚泥法

生分解性があるので、低濃度の廃水は活性汚泥処理が可能である。

汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制 (適用法令)

陸上規制 : 特段の規制なし (非危険物)

海上規制 : 特段の規制なし (非危険物)

航空規制 : 特段の規制なし (非危険物)

国連番号 : 非該当

国連分類 : 非該当

品名 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類

: 非該当

特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法

: 非該当。

ただし、R8年4月1日以降、次のように該当。

名称等を表示すべき危険物及び有害物

「オクタデシルアミン (別名モノステアリルアミン)、

対象重量%は 1」(法第57条の1)

名称等を通知すべき危険物及び有害物

「オクタデシルアミン (別名モノステアリルアミン)、

対象重量%は 1」(法第57条の2)

化審法

: 優先評価化学物質 No.171 (官報公示日: 2014/04/01)

「アルカン - 1 - アミン (C = 8, 10, 12, 14, 16, 18、

直鎖型)」

優先評価化学物質の評価対象; 生態影響

毒物及び劇物取締法

: 非該当

消防法

: 非該当

化学物質排出管理促進法 (PRTR法)

: ・分類 「第1種指定化学物質」

・政令番号 「1-37」

・管理番号 「576」

・政令名称 「アルカン - 1 - アミン (アルカンの構造が直鎖であり、かつ、当該アルカンの炭素数が 8、10、12、14、16 又は 18 のもの及びその混合物に限る。)」

ただし、2023年 (R5年) 3月31日まで非該当

船舶安全法

: 非該当

航空法

: 非該当

輸出貿易管理令

: キャッチオール規制 (別表第1の16項)

HSコード: 2921.19

第29類 有機化学品

・輸出統計番号 (2023年4月版): 2921.19-000

「アミン官能化合物

- 非環式モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩:

その他のもの」

・輸入統計番号 (2023年4月1日版): 2921.19-000

「アミン官能化合物

- 非環式モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩:

その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。